**迦葉堂**

本堂の隣にある2階建ての迦葉堂は、報国寺で2番目に大きな建物です。上の階は応接間で、下の階は座禅や仏教の葬儀(法要)に用いられます。通常は一般公開されていません。

毎週日曜日の朝には、迦葉堂の1階で座禅会が行われます。誰でも参加できますが、指導は日本語で行われ、気軽に参加する方にとってはチャレンジングなものとなるでしょう。受講者と僧は、床に薄い座布団を敷いて長時間座ったりひざまずいたりして、静かに瞑想を行わなければなりません。壁には毎回参加する人の名前を記した木の札がかけられ、その中には50年にもわたって報国寺に瞑想しに来ている人もいます。

迦葉堂正面の開放的な内陣には2体の像が祀られています。1体は、報国寺を開山した僧である天岸慧広（1273–1335）が椅子に腰掛けた、極めて精緻な木像です。この像は凹凸が滑らかなので、木材ではなく粘土でできているように見えます。1347年に制作され、寺のお堂の多くを破壊した1923年の関東大震災を生き延びました。その隣には、流れるような赤と青のローブを身にまとった迦葉像があります。これは複製で、オリジナルは有名な仏像作家の宅間法眼の作品でしたが、1800年に焼失しました。

迦葉堂の裏には小さな庭があり、これは天岸慧広による設計であると考えられています。典型的な禅の枯山水で、鯉のいる池と小川があり、木や報国寺の竹林に取り囲まれています。